

チューリップ品種展

チューリップの原種や変わり咲き品種など500品種を一同に展示しています。

チューリップの分類

チューリップの名前には「SE」、「DH」などアルファベットの記号が付いていますが、これは開花時期や草姿などを園芸的に分類したものです。大きく分けて3月下旬頃から咲く原種系品種と早生品種、4月中旬頃に咲く中生品種、4月下旬頃に咲く晩生品種の4つのグループがあり、さらに花の形や草姿などから15の系統に分けられています。右の表には系統ごとの記号と特徴を表示しています。これを見れば秋に球根を購入する時に、いつ頃どんな花が咲くかを知ることができます。

アイスチューリップ
展示中!

アイスチューリップとは、秋に植えられた球根が冬で-20℃まで凍らせ、暖か
せたい時期の2〜3週間前に北海道から出たものです。アイスチューリップ
はエスキモーチューリップともいわれ、もともとチューリップの切り花を寒か
らぬにかけて出荷するために考えられたシステムです。フラワーセンターでは
その特徴を応用し、より長くチューリップを楽しんでいただけるように工夫し
ています。

ここでは、チューリップまつり期間中に
フラワーセンターの花壇で見ることが
できるチューリップが集まってるよ!!



500品種もあるんだって!
すご〜い!!
自分のお気に入りのチューリップを見つ
けてね!



分類	記号	系統	特徴
原種系品種 (3月下旬〜)	H	カウフマニア系	チューリップの中では晩生（最も早咲き）の品種で、草丈は高く、花は種輪のものが多いのが特徴です。
	F	フォスターリア系	ダーフィン・ハイブリッド系の系統で、品種としては花は大きく草丈もあり、耐ウィルス性もある丈夫な品種系統です。
	GL	グレイギー系	花は大きめですが、草丈は低く葉に紫色の斑または花が入るのが特徴です。
	S	その他の野生種と その変種系統	カウフマニア、フォスターリア、グレイギー系以外の野生種やそれらが偶然に交配してできた品種系統です。
早生品種 (3月下旬 〜4月中旬)	SE	一重早咲き系	一重の早咲き品種。草丈が低めで花もやや小さめの品種が多いのが特徴です。
	DE	八重早咲き系	八重の早咲き品種。草丈は低めで一重早咲きの突然変異で生まれた品種系統です。
中生品種 (4月中旬 〜4月下旬)	T	トラジャンク系	一重咲きの中生品種。一重早咲きと一重遅咲きの交配種で、品種数が少ない系統です。
	DH	ダーフィン・ハイブリッド系	一重遅咲きのダーフィン系（古い分類）とフォスターリア系の交配種。フォスターリア系の耐ウィルス性や草丈の高さなどを受け継ぎます。
晩生品種 (4月下旬 〜5月上旬)	SL	一重遅咲き系	一重の遅咲き品種で草丈が高いのが特徴。晩生とされていますが、品種によって開花差が大きい系統です。
	L	コリネ系	花弁の先がユリの花のように細く反り返るのが特徴です。
	FR	フリンジ咲き系	花びらの縁がギザギザのフリッジ状になっているのが特徴の品種系統です。
	V	ゼリディフローラ系	花びらの中央に緑色のラインが入るのが特徴です。
	R	レンブラント系	突然変異で切りや結核病が入る品種ですが数が少なく、あまり流通はしていません。偶々では他の系統で変異が入っているものを単に「レンブラント咲き」と置いている場合もあるようです。
	P	パレット咲き系	花びらの縁には込み入り、オウム模様の「オサカ」のように見える事から系統付けられた品種系統です。
	DL	八重遅咲き系	八重の遅咲き品種。花弁の重なりが早生より多く、草丈も高めで花も豪華です。

※開花時期は地域や気候によって多少 異なります。また、最近ではより交配が進んで、それぞれの特徴を併せ持った品種が作り出されています。
(例：ユリ咲き+フリンジ咲き)





































